

# 古瀬 義 氏 植物標本コレクション

たなか のりひさ  
田中徳久 (学芸員)

ふるせ みのし 氏が採集された植物標本コレクションについては、1997年に勝山学芸員が紹介しています(「自然科学のとびら」第3巻第4号 p.32)。そこでは、「1996年(平成8年)4月、古瀬氏は84才で亡くなられ…古瀬コレクションもこれ以上増加することはなくなりました」と結び、古瀬氏とそのコレクションについて解説しています。

しかし、その後、「これ以上増加することはなくなりました」と紹介された古瀬コレクションですが、2007年、古瀬氏のご遺族より、遺された標本を寄贈したいとの申し出を受けました。古瀬氏が生前に採集され、整理途上で亡くなられた後、ご遺族が整理された約8,000点です。

当館では、2009年12月5日(土)から2010年2月21日(日)まで、「押し葉〜古瀬 義 植物標本コレクション〜」と題した企画展を開催し、古瀬氏のコレクションを中心に、生命の星・地球博物館の植物標本を紹介しています。ここでは、前記の記事と重複する部分もありますが、古瀬コレクションの概要を紹介したいと思います。

## 古瀬氏のとなり

古瀬氏(図1)は1911(明治44)年11月25日、現在の飯田市に生まれ、県立飯田中学校を卒業後、慈恵医大予科を経て松本高等学校に学び、同校を中退した後に、1934〜1935年頃には共立女子薬学専門学校の助手として、小泉秀雄氏のもとで標本の整理にあたられていたと言われています。その後、外国航路の船員となって海外に渡られ、

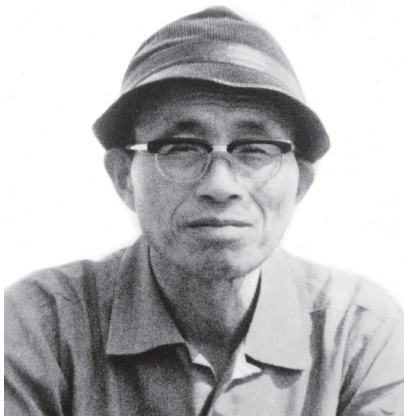


図1 古瀬 義 氏 [1911〜1996] (写真提供:長澤延子氏)。



図2 押し葉標本を製作中の古瀬氏(写真提供:長澤延子氏)。

ロンドンのキュー植物園などに通って標本について学び、戦後は東京都のバスの運転手として働きながら、日本各地を採集してまわったそうです。

定年退職後は、北海道、小笠原、琉球などでさかんに植物調査・採集を行い、多数の植物標本を製作されています。特に琉球では、1973年から2年間ほど、石垣島の於茂登岳山麓に住み込み、植物採集に明け暮れました。

## 古瀬氏の標本

古瀬氏は戦前より日本各地を歩かれ、その採集標本は15万点を超え、日本一の、そして日本最後のプラントハンター(植物採集家)とも言われています。その製作した標本は、1点1点を丁寧に採集し、新聞紙を毎日取り替えて標本を乾燥させ、生育環境まで記載されたラベルが添付されています。そして、自分の満足できる標本のみを、大学や博物館に提供されていました。

このような古瀬氏の植物標本は、初期には国立科学博物館や東京大学に収められ、その後は、アメリカやイギリス、ス

ウェーデン、中国などの海外の標本庫にも送られ、高い評価を得ています。

当館には、25,000点以上の古瀬氏の採集した植物標本が収められており、これらの海外に送られた標本の副標本にあたるものが含まれ(図3,4)、おそらく日本国内では最大のコレクションだと思われる。

## 古瀬氏の関わった植物

古瀬氏が採集した膨大な標本の中には、その標本がもととなり新種として記載されたものも多く、学名に“furuse”の名を遺すものに、

レブンイワレンゲ *Orostachys furusei* Ohwi (ベンケイソウ科)

ミカワチャルメルソウ *Mitella furusei* Ohwi (ユキノシタ科) (図5)

アカイシ lindou *Gentianopsis furusei* Hid. Takah. (リンドウ科) (図6)

ウラジロカガノアザミ *Cirsium furusei* Kitam. (キク科)

キバナコウリンカ *Senecio furusei* Kitam. (キク科)

などがあり、古瀬氏自身の名前で発表されたものには、中国の陳博士との共著で記載したカイサカネラン *Archineottia japonica* Furuse (最近では組み替えられた *Neottia japonica* (Furuse) K.Inoue が使われることも多いようです)があります。

さらに、氏の採集した標本から、コウシュンスゲ *Cyperus pedunculatus* (R.Br.) Kern やホウザンスゲ *Carex hoozanensis* Hayata など、多数の日本新産の植物が見出されています。

## 生命の星・地球博物館の古瀬コレクション

前述のように、ご遺族より新たに約

248	3	ハテルマギリ	N	S	カ	<i>Guettarda speciosa</i> L.
249	2	モンパノキ	N		カ	<i>Messerschmidia argentia</i> John
250	4	ハテルマギリ	N	S	K	<i>Guettarda speciosa</i> L.
251	2	フクギ	N		カ	<i>Garcinia subelliptica</i> Merr
10 July 1972 石垣島 新川						
Arakawa Is. Ishigaki (Prov. Ryukyu)						
252	3	テリハホク	N	S	K	<i>Calophyllum inophyllum</i> L.

図3 標本台帳(控え)の一部。Nはアメリカ、Sはスウェーデン、Kはイギリスの標本庫で、カは当館。表中の250が図4に示したハテルマギリの標本(資料提供:長澤延子氏)。



図4 ハテルマギリ（沖縄波照間島 1972.7.8 古瀬 義 No.250 KPM-NA76621）。この標本と同じ場所で同じ採集年月日に採集した標本が、アメリカ、スウェーデン、イギリスにも収められています。

8,000 点が寄贈され、当館が所蔵する古瀬コレクションは、博物館情報システムによると 25,166 点になりました。1997 年当時、博物館全体の維管束植物標本は約 15 万点とされていますが、こちらにも、新たに受け入れたものや整理が進んだものもあり、約 23 万点になりました。古瀬コレクションは、標本の点数では、全体の 11.0% になり、その存在の大きさが分かります。さらに、種類数（亜種や変種などをそれぞれ別に算出）でみると、全体では 8,035 種類が登録されていますが、そのうちの 4,907 種類は古瀬コレクションにも含まれています。この数は全種類数の 61.0% に相当します（一部には未同定の標本もあります）。日本にどれくらいの植物の種類が分布しているのかを決めるのは難しいことですが、当館で収蔵している標本から推定するだけでも、古瀬氏は、その半分から 7 割近

表1 都道府県別の種類数・標本点数と生命の星・地球博物館の植物標本における割合。( ) 内の数値が割合。

都道府県名	種類数	標本点数
栃木県	1,244 (78.6)	3,041 (65.2)
沖縄県	1,193 (92.2)	4,704 (75.9)
長野県	1,110 (49.9)	2,380 (20.9)
北海道	1,066 (69.3)	3,122 (38.4)
鹿児島県	860 (66.6)	2,274 (40.3)
山梨県	680 (50.0)	1,147 (22.8)
静岡県	564 (24.3)	1,042 (10.2)
東京都	447 (18.9)	903 (8.7)
千葉県	380 (35.4)	592 (19.4)
兵庫県	366 (49.8)	538 (38.0)



図5 ミカワチャルメルソウ（南設楽郡作手村 1958.5.3 古瀬 義 KPM-NA54557）。長野県や愛知県、岐阜県に分布し、学名上はチャルメルソウの基本種とされます。

くを採集したことになります。古瀬コレクションを採集した都道府県別の種類数と標本数でみると、表1のようになります。もっとも多くの種類を採集しているのは、晩年に降に住まわれた栃木県、2年間滞在した沖縄県、長野県、北海道、鹿児島県の順になり、標本点数では沖縄県、北海道、栃木県、長野県、鹿児島県の順になります。住まいをおかれた栃木県を除くと、日本の南北の端に位置し、それぞれに興味深い植物相を有する沖縄県と北海道、3,000 m を超す日本アルプスを有する長野県で積極的に採集されているのが分かります。当館の植物標本全体の中での種類数の割合では、沖縄県では 92.2%、栃木県では 78.6%、北海道では 69.3% の標本が古瀬コレクションに存在します。なお、東京都で採集された標本のうち、236 種類 568 点は小笠原

表2 古瀬コレクションと生命の星・地球博物館の植物標本の科別の標本点数と割合。

科名	古瀬コレクション	全体	割合 (%)
カヤツリグサ科	2,018	17,751	11.4
キク科	1,651	18,676	8.8
イネ科	1,395	16,747	8.3
バラ科	984	9,601	10.2
オンダ科	927	11,452	8.1
マメ科	764	6,367	12.0
シソ科	666	5,615	11.9
キンポウゲ科	589	4,544	13.0
イワダゲ科	589	6,277	9.4
ユリ科	577	5,520	10.5



図6 上：アカシリンドウの生態写真（写真：高橋秀男氏）。右：タイプ標本（信濃地蔵岳 1967.8.29 古瀬 義 KPM-NA43075）。アカシリンドウは、南アルプスと白山の高山帯に分布し、シロウマリンドウの変種ともされます。



諸島のもので。また、科別にみると表2のようになります。科を構成する種類の数の大小は差があり、比較が難しいので、それぞれの標本数を比べてみました。古瀬コレクションで標本数が多いのは、カヤツリグサ科、キク科、イネ科、バラ科、オンダ科です。この傾向は、多少の順序は入れ替わりますが、当館全体の標本でも同じで、所属する種類数が多い科や生育量の多い科を多く採集している傾向がうかがえます。

自然科学のついで  
第15巻4号（通巻59号）  
2009年12月15日発行  
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館  
館長 斎藤靖二  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499  
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846  
<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>  
編集 石浜佐栄子  
印刷所 文化堂印刷株式会社

© 2009 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

